

元地質情報研究部門の石原丈実氏が "IAGA Long Service Medal" を受賞

田中 明子（産総研 地質調査総合センター地圏資源環境研究部門）

元地質情報研究部門の石原丈実氏が、リスボンで開催された The IAGA/IASPEI Joint Scientific Meeting 2025 (国際地球電磁気学・超高層物理学協会 / 国際地震学・地球内部物理学協会 合同学術総会 2025) において、長年にわたり IAGA コミュニティへの顕著な貢献を称える "IAGA Long Service Medal" を 2025 年 9 月 3 日に受賞されました。誠にありがとうございます。この機会にこれまでの石原氏のご経歴やご関心を持ってこられた研究テーマなどを紹介し、皆様と共に受賞の栄誉を祝したいと思います。

石原氏は、1973 年に工業技術院地質調査所(現 産業技術総合研究所地質調査総合センター)に入所され、1974 年に就航した地質調査船「白嶺丸」で収集された海洋重力・磁気データを用いて、日本列島周辺および太平洋沖合の地球物理学的研究を行ってこられました。1987-1990 年にかけては、東・東南アジア地球科学計画調整委員会(CCOP)において航空磁気図編纂プログラムのコーディネーターとして派遣され、1994 年には、CCOP 加盟国および協力国から提供された多くの航空および海洋磁気データを用いて MAMEA (Magnetic Anomaly Map of East Asia : 東アジアの磁気異常図) の初版を出版されました。その後も追加データを含めた改訂版が出版されています。なお、提供されたデータの多くは等高線図や断面図といったアナログ形式であり、それらのデジタル化作業とその後の必要なデータ処理には多大な時間と労力が費やされたとのこと。1994-1996 年にかけては、石油公団(現 エネルギー・金属鉱物資源機構)において、南極周辺海域における地質・地球物理学的調査研究に従事され、南極地域の

磁気データ整備プロジェクトにも参加されています。2005 年に開始された WDMAM (World Digital Magnetic Anomaly Map : 世界磁気異常図) プロジェクトには当初から参加され、MAMEA データの提供に加え、主に海洋域におけるデータの編集を通じて貢献されてきました。外れ値の除去、地磁気永年変化・日変化の補正、レベリング補正など様々なデータ処理を施すことで、全球海洋磁気異常データセットの作成に成功されました。2021 年には、「世界磁気異常図の編集への貢献」により SGPSS (地球電磁気・地球惑星圏学会) フロンティア賞を受賞されています。また、石原氏は、海洋重力研究にも積極的に取り組んでおられ、2018 年には、自立型無人潜水機に搭載された重力計を用いた海底鉱床探査の研究により、米国物理探査学会の論文賞を受賞されています。

石原氏は 2006 年に定年を迎えられてからも研究を続けられており、これらの多大な功績の中から、優れた MAMEA 地図の作成、多くのアナログの海洋および航空磁気データのアクセス可能なデジタル形式への変換、海洋磁気異常値差を補正する新たな解析手法の開発、の 3 つの主要な功績でメダルに推薦され、この度の受賞となりました。



写真 1 石原氏(中央)と Andrew Yau IAGA 会長(右) (石原氏提供)。



写真 2 IAGA から贈られた賞状とメダル (小田啓邦氏提供)。